



2015 DIJON Racing SUPER GT RACE REPORT

SUPER GT IN KYUSHU 300KM RACE

開催日時 : 2015 年 10 月 31 日～11 月 1 日
 開催地 : オートポリス (大分県)
 ドライバー : Takamori 博士 / 田中勝輝
 マシン名 : DIJON Racing GT-R (日産 GT-R GT3)
 参戦クラス : 2015 年 SUPER GT SERIES / GT300 クラス

天候 : 予選 / 晴れ
 決勝 / 曇りのち雨

路面 : 予選 / ドライ
 決勝 / ドライ & ウェット

入場者数 : 予選 / 11,340 人
 決勝 / 22,680 人

公式練習 : クラス 23 位 (1 分 47 秒 508)

予選 Q1 : クラス 22 位 (1 分 46 秒 610)

予選 Q2 : ---

フリー走行 : クラス 24 位 (1 分 48 秒 865)

決勝 : クラス 15 位 (59 周)

DIJON
Racing

inoiki
MTSUNAGA
 GROUP
 h Dental office
ENDLESS

Cure★
 Album Planer

IBRIDA CELL

NILZZ
 Racing Factory

POWER STATION

アーツ銀座
 クリニック

KTEL

PINS
 FACTORY®

NISSAN nismo
 NISSAN GT-R NISMO GT3
 Customer Racing

CKK

TAKATA

ヒョウゴベンダ

YOKOHAMA

RAYS



2015 年の SUPER GT シリーズも終盤を迎え、第 7 戦はシリーズ唯一の九州開催となる『SUPER GT IN KYUSHU 300KM』と題され、10 月 31 日から 11 月 1 日にオートポリス（大分県日田市）で開催された。

今回の舞台であるオートポリスサーキットは山間の起伏の激しい地形を活かしたアップダウンの激しいテクニカルサーキットであり、阿蘇山麓に位置することから標高が高い位置にあるために天候変化の予想も難しく、レース戦略の組み立てが非常に難しい。

DIJON Racing は Takamori 博士と田中勝輝のコンビでこの第 7 戦に挑んだ。

■10 月 31 日（土） 公式練習

好天に恵まれたものの、秋の終わりを感ぜさせるまでに寒さを感じる中、ドライコンディションのなか、9 時 00 分よりフリー走行が行われた。

DIJON Racing GT-R は、Takamori 博士がコースイン、マシンチェックのためにストレートを通過せずにピットに戻る。マシンの確認も終わり、本格的に走り出そうとした瞬間、GT500 車両のクラッシュによる赤旗中断があり、車両回収及びコース整備に大幅に時間が掛かったため、朝のフリー走行は実質 1 時間弱と非常に短時間となってしまった。

セッション再開後、陽は上がってきているがまだ路面温度が低いため、様子見のラップを続け、マシンの感触とコース状況を入念に分析する。

セッション終盤になっても路面温度はなかなか上がらなかった為、全体的にセーブした走行ではあったが、プログラムを順調に消化した。

DIJON Racing GT-R はこのセッションで 33 周を走行。終盤に Takamori 博士がマークした 1 分 47 秒 508 がベストタイムとなり、このセッションは GT300 クラス 23 位となった。

DIJON
Racing

inokiki
MITSUNAGA
GROUP
h Dental office
ENDLESS

Cure★
Album Planet
IBRIDA CELL
NILZZ
Racing Factory
POWER STATION

アーツ銀座
クリニック
KTEL
PINS
FACTORY®
NISSAN **nismo**
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing

CKK
TAKATA
ヒョウゴベンダ
YOKOHAMA
RAYS



■10月31日(日) 予選 Q1

午前中に引き続き、好天の下で行われた予選 Q1 セッションはエースドライバーの Takamori 博士が担当した。

13時30分、GT300クラスの予選 Q1 がスタート。タイヤを入念に温めるために計測 2 周目よりアタックを開始する。アタックラップに入った Takamori 博士、まずは 1 分 47 秒 089 をマークし 2 位につける。その翌周には 1 分 46 秒 610 までタイムを短縮、順位は少し落としたものの 6 位と好位置につけると、その後はタイヤライフの影響を考慮して、早々に予選アタックを終了する。

残り時間 5 分の時点で予選 Q1 突破ラインを上回る 12 位につけていた DIJON Racing GT-R ではあったが、セッション終了時にはライバル勢のタイムアップもあって 22 位まで後退。残念ながら Q2 進出に進出することは叶わなかった。

■11月1日(日) フリー走行

予選日の好天から一転、曇り空の下で迎えた決勝日。

気温は一段と下がり、肌寒さを増したなか、9 時 00 分からウォームアップ走行のセッションが行われた。

午後から行われる決勝に向けて、コースコンディションの確認やピット作業などの最終確認を万全に行った。

このフリー走行は 15 周を計測。田中のマークした 1 分 48 秒 865 が ベストタイムとなり、クラス 24 位で終了した。

■11月1日(日) 決勝 (65 周)

今にも雨が降り出しそうなほどに濃くなる空模様の下で、14 時 00 分から決勝レースのローリングスタートが開始された。スタートドライバーを務める Takamori 博士は上位進出を狙うべく、虎視眈々と機会を伺う。

DIJON
Racing

inokii
MTSUNAGA
GROUP
h Dental office
ENDLESS

Cure★
Album Planet
IBRIDA CELL
NILZZ
Racing Factory
POWER STATION

アーツ銀座
クリニック
KTEL
PINS
FACTORY®
NISSAN nismo
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing

CKK
TAKATA
ヒョウゴベンダ
YOKOHAMA
RAYS



混戦の中、GT500 クラスの車両が追いついてきた 8 周目、前方を走る 111 号車 SLS が第 2 ヘアピンでスピン。

これを避けるために大きくレコードラインを外したことで順位を落としてしまう。

順位を回復すべく仕切り直すが、今度は 5 号車 86 マザーシャーンに行く手を阻まれ、ペースを上げられず我慢の走行を強いられてしまう。

レース距離の 3 分の 1 を過ぎた 20 周目、コース上ではいよいよ雨が降り出してきた。

しかし雨量は少なく、Takamori 博士からの無線で『路面はドライタイヤでいける』との報告を受けた DIJON Racing は、そのまま走行継続を指示。ライバル勢の動向と天候変化を読みながら、ピットストップのタイミングを図った。

ピットとドライバーの間でタイヤの磨耗状況について無線通信で打ち合わせ、タイヤを温存しながら 36 周を終え、12 位まで順位を上げた DIJON Racing は、Takamori 博士にピットインを指示する。

ピットイン直前に、Takamori 博士から『タイヤ温存したので、絶対無交換で最後まで持つよ!』という報告もあり、予定していたタイヤ交換を急遽キャンセル。タイヤ無交換作戦を実施することとした。

ピットに戻ってきた DIJON Racing GT-R はチェッカーまでの必要燃料を給油したのみで作業を終え、田中に残り全てを託すことになった。

ピットアウト後の田中は上位陣と遜色ないタイムで周回。先行するライバル勢との差を縮めていった。

レースもいよいよ終盤を迎え、65 号車 SLS と 360 号車 GT-R に追いつき、13 位争いを展開する状況となる。

そして迎えた最終ラップ、ここでアクシデントが発生。コントロールを失った GT500 車両に押し出されてしまい、大きくタイムロス。

幸いにも走行不能になるほどのダメージでは無かったため、DIJON Racing GT-R は順位を落とすも、クラス 15 位で第 7 戦のチェッカーフラッグを受けた。

DIJON
Racing

inokiki
MITSUNAGA
GROUP
h Dental office
ENDLESS

Cure★
Album Planer
IBRIDA CELL
NILZZ
Racing Factory
POWER STATION

アーツ銀座
クリニック
KTEL
PINS
FACTORY®
NISSAN nismo
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing

CKK
TAKATA
ヒョウゴベンダ
YOKOHAMA
RAYS